

平成 18 年 11 月 28 日

インド・アジア開発

龍の復帰

(Return of the Dragon)

—胡錦濤中国主席の訪印—

(Visit of Hu Jintao)

万里の長城登攀はインドの予想以上に困難なようだ。11 月 20 日から四日間の予定で訪印する Chinese President 胡錦濤に赤絨毯を拡げる前に中国独特のやり方で問題が起こった。主席来印四日前に、駐印中国大使 Sun Yuxi が「Tawang 地域を含む Arunachal Pradesh は中国領だった。又、Tawang については長年に亘り帰属要求をしている」と明言した。

中国大使言は両国関係の更なる緊密化の可能性示唆に冷水を浴びせるものだった。中印両国調印予定の Joint Statement と諸協定案の摺り合せに忙殺されていた UPA インド政府を驚愕させたのは、そのタイミングだった。インド政府は外務大臣 Pranab Mukherjee の発言「Arunachal はインド国を構成する領土の一部である」で以って直ちに反論した。

Sun 大使は TV インタビューで「中国の立場は、Arunachal Pradesh 全体が中国領であり、Tawang はその一部分に過ぎない。我々は全部の帰属要求をしている」と述べ、Mukherjee インド外相は「Arunachal は割譲すべからざるインド領土であり、本件に関して議論の余地は無い」と反論した。

インド政府は、Arunachal の東界中印国境でインド領 90,000 平方キロを中国が不法に帰属要求していると言明している。

大成功とは言えないまでも、両国代表団が過去 8 回に亘り領土問題解決を協議してきており、Hu 主席訪印は領土問題協議を推進する筈だった。実際、主席訪印前に 9 回目の協議が予定されていたが、日取りが決らなかった。昨年、Wen Jiabao 中国首相訪印時に国境問題解決の“political parameters and guiding principles”に両国調印したが、厄介な国境問題の進捗は遅々とした状況である。

Jammu & Kashmir で 38,000 平方キロの不法占拠を中国は継続しており、加えてパキスタンが占拠しているカシミール（インド領）から、1963 年の中国・パキスタン国境協定に基づき中国は 5,180 平方キロの領土割譲を受けているとインドは主張している。

TV インタビューの翌日、中国大使館筋は領土問題は協議事項であるとして事態沈静化を図ったし、専門家筋は、国境問題でインドの譲歩を引出す為の中国の圧力戦術の一つと看做している。Sun 大使の国境問題発言は今回が初めてではない。昨年の Jiabao 首相の訪印前

にも同様趣旨の発言があったし、最近では“対印投資希望の中国企業への差別待遇である”と彼が断ずる事柄を公表している。

戦略分析家 Brahma Chellany は“Arunachal の乱暴な帰属要求、特に具体的に Tawang の帰属要求で、国境協議での進捗責任をインド側に押付けることを狙っている。中国側の不当要求は Arunachal と歴史的に結びついている Tibet の併合問題に絡んでおり、真の問題はチベットである”と言明している。中国が Arunachal 問題を繰返す間、中国が及び腰であるチベット問題をインドが冷静に提起することで均衡を保つ必要がある。西欧諸国はチベット問題を支援しているが、インドがチベットは中国の一部であると承認することで、貪欲な領土要求を抑えてきたし、チベット問題は中国を中印国境協議の場に着席させたいインドに役立つだろう。

インド政府は、中印関係は一晩で変えることは無いし中国と調和を図っていかなければならないと表明している。従い、インド政府は Sun 大使の言は不当であると北京に伝達したが、斯かる外交官の不当行為に対し通常行なわれる外交手段、外交官への審問や外交上の転換策発出は行なわなかった。インドが中国大使発言をエスカレートさせたくなかったのは明らかだが、インド政府の対応は軟弱との意見も多い。

今や、主席来印を如何に円滑に成就するかが焦点であり、“我々は Arunachal 問題について我々の立場を明確にしたし、中国も然り。焦点は前向きな戦略的提携と諸協定締結であり、ステートメントはそれを反映するものになるだろう”と印外務省高官が発言している。

中印関係は長年に亘り不信感に充ちていたし、インドは中国・パキスタンの密接な軍事協力に留意している。実効国境線は平穩に推移してきているが、中国のインド包囲戦略とミャンマーからネパール更にパキスタンまでの戦略的資産拡充策がインドを悩ませている。バングラデッシュのチッタゴン港に於ける最近の中国投資、スリランカにおける発電プロジェクトから NTPC (National Thermal Power Corp. インドの火力発電公社) の巧みな追出し、がインドを刺激している。

国連安保理事国へのインドの立候補、東アジア首脳会議参加、に関する中国のインド支持があるとは言え、中国の誠意は疑問視されている。アフリカや中南米で中国はインドの影響力払拭に積極的である。

胡主席来印時、会談は国境問題は一寸触れるだけで 本年 200 億ドルに達するであろう両国貿易など経済協力拡充に焦点が置かれよう。胡主席の来印は未来への一歩だが、中印両国が友好スローガンの下に戻るには長い道程が予想される。

(India Today, Nov. 27, 06)

記事邦訳